

またうど 村木 嵐・著／幻冬舎

愚直なまでに正直な信の者・田沼意次と聞くと「まいない政治」というのが第一印象でしたが、意次の真意は何だったのかと考えさせられました。浅間山噴火、地震等の災害が重なり日本を立て直すのが厳しい時期に奮闘した様子に田沼意次という方の一面を垣間見たと思いました。

(Yさん)

マザー 乃南 アサ・著／講談社

(セメタリー) 幼いころから明るい笑顔に満ちていた我家は、母の苦悩によって営まれていた事を知る岬樹。

(ワンピース) 周囲から期待されていた兄は、医師になるが、うつ病になり、60歳で引きこもりとして母親の死に呆然とする。どれもハッピーエンドではない。 (Sさん)

本が破れてしまったら

いつもきれいに読んでいただいているが、もしも借りた本が破れてしまったら、職員にお伝えください。

セロテープなどの補修は、本を傷める原因となってしまいますが、そのままの状態で戻してください。乱丁、落丁についても教えていただけます。



てのひら文庫について

ご家庭で不要になった本をお持ちいただき、町民のみなさまと交換する本棚です。

◎一回に持ち込む量は20冊までお願いします。次のような本は持ち込めません。

- 1 汚れたり（書き込み等含む）、壊れているもの
- 2 優利のための宣伝、政治活動または宗教の布教を目的とするもの
- 3 青少年の健全な育成に障害となるもの
- 4 百科事典や文学全集など冊数・紙量の多いもの

◎本を持ち出したいときは、手続きは不要です。ご自由にお持ち帰りください。

睦沢町立中央公民館図書室

開館時間 8:30～17:00 休館日：月曜日

(第1～第3土曜日は19:00まで)

TEL 0475-44-0211

図書室だより

令和7年度第1号



新着の図書

NEW

逃亡者は北へ向かう



柚月裕子/著・新潮社

震災の混乱のなか、二つの殺人事件が起きた。過酷な運命に抗う人々と「生」への渴望を描く。身内を津波で亡くした著者が、時の癒しを経て満を持して書いただけに、被災者の心理描写や震災直後の混乱が、臨場感を持って伝わってくる。

発達障害の子どもが「困らない」学校生活へ

薬丸岳/著・NHK出版

授業中座り続けるのが苦手な子、イベントや行事が苦手な子、周りにあわせた行動が苦手な子など多様な子どもたちがいる学校における「ふつう」の数々。でもそれは、マジョリティを中心につくられた「ふつう」かもしれません。

世にもふしぎな法律図鑑

安井政樹/著・日経BP

ラクダ、そり、ベビーカー。この中で飲酒運転になるのは？日常に潜むふしぎで理不尽な法律の正体、こっそり教えてくれます。ぜひ肩の力を抜いて、あなたの隣の「ふしぎな法律」の世界をのぞいてみてください。





子どもの読書週間 2025

4/23～5/12

子どもたちにもっと本を！との願いから、「子どもの読書週間」は1959年（昭和34年）はじめました。もともとは、5月5日の「子どもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、2000年より、今の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）～5月12日になりました。

小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。子どもの読書週間は、大人が本を子どもに手わたす週間でもあるのです。



子どもの読書週間に合わせ子どもたちの本を年齢別に展示しています。

「あいことばは

ヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」

良い本を選んであげたいけれど何を選んだらいいかわからない、楽しく家族で読み聞かせしてあげたい。そんな気持ちに寄り添った本選びの中からどうぞゆっくり家庭の中で本を読む習慣を取り入れてみてください。



本屋大賞発表！

2025年の本屋大賞が発表になりました。

本屋大賞は、全国の書店員さんの投票で選ばれる文学賞で、毎年1回発表されます。書店員さんが「面白い」「売りたい」と思った本が選ばれています。読者に近い立場から選ばれるため、普段あまり本を読まない人にとっても親しみやすい書籍が多くノミネートされます。発掘部門では、過去に出版された作品の中から、時代を超えて残る本や、今読み返しても面白いと思う本が選出されます。

超発掘本『ないもの、あります』クラフト・エビング商會（著）ちくま文庫

本屋大賞 2025年大賞決定!!



公民館では本屋大賞入賞作品と超発掘本を入荷し、みなさんに読んでいただきます。